

◎通常総会 土木学会としては初めての試みであり、地方会員多年の要望にこたえての総会の地方進出は関西支部の斡旋で昭和 26 年 5 月 26 日午後 1 時から大阪大学医学部講堂において開催された。会次第及び議事は次の通りであつた。

開会の辭 総務部長 佐藤寛政君
 挨拶 関西支部長 和田重辰君
 昭和 25 年度事業報告 総務部長 佐藤寛政君
 (お知らせ欄参照)
 昭和 25 年度決算報告 経理部次長 北村市太郎君
 (お知らせ欄参照)

名誉員推挙 三浦会長より本年 1 月来朝した米国土木学会長 Gail. A. Hathaway 氏の推挙追認及び久保田敬一、島重治、松島寛三郎の 3 君の名誉員推挙がはかられたが、満場拍手を以て可決し、直ちに来場の島松島両君に推挙状が授与された。(お知らせ欄参照)



土木賞授与 土木賞委員会田中委員長から委員会の経過についての説明並びに授与理由の朗読があり、引き続き受賞者 3 君に授与が行われた。(お知らせ欄参照)

新任役員紹介 三浦会長より 26 年度新任役員 7 氏が紹介された。(別項参照)

会長講演 三浦会長辞任に際し別掲の如く極めて判り易く本邦土木施設の戦災に対する処置とその復興状況並びに土木構造物の恒久性について述べられ満堂に溢れた約 520 名の参会者に深い感銘を与えた。

◎通常総会有志懇親会 5 月 26 日総会、講演会に引き続き定刻よりやや遅れて午後 7 時から大阪中央公会堂 3 階大食堂で開催された。和田関西支部長の司会により稲浦副会長先づ会員を代表して三浦前会長を送り大西新会長を迎える挨拶があり、ついで三浦前会長立つて地元関西支部及び関係団体への謝辞並びに辞任の言葉があり、更に大西新会長より本年度の抱負が述べられた。会員既に 1 万名を突破し、更に月 100 余名の増加をみている学会の力強い発展に則して学会役員の



新しい顔振れは今後の活動に大いに期待されるものがある。堂を満たした約 250 名の参会者が老若を問わず和やかに打融けることが出来たのは唯にビールのためばかりでなく土木と云う同じ目的によつて結ばれた心の理解があつたからであろう。程よく酔も廻るうちにデザートコースに入り、稲浦副会長を皮切りに名誉員を代表して島氏、土木賞に輝く谷藤、国分、岩垣氏、



元関西支部長高西氏等がテーブルスピーチを行い、最後に福留並喜氏の発声で土木学会の万才を三唱し 8 時半頃閉会した。

◎第 7 回年次学術講演会 通常総会に引き続いて、同会場で第 7 回年次学術講演会(第 1 日)が開催された。武居副委員長の開会の挨拶、小西講演委員の本講演会準備経過と実施次第の説明があつて後、まず矢野氏より印度における 5 つの国際学術会議の状況と、印度人によつて着々進められている大土木工事の視察報告があり、わが国の工事の大きさと比較して興味深いものがあつた。辻井氏は最近の米国都市交通についての視察報告をされたが、わが国都市交通の現在及び将来計画に参考となるものが多かつた。石原氏は日本学術会議の近況と題して、科学技術研究予算、学術研究による諸外国との交驛等につて詳細な報告があり、土木工学発展のために学術会議を通じて会員の興望に答える決意の程を披瀝され多大の感銘を与えた。福田氏は工

学用語制定の過去の経過と、土木用語委員会委員長として、用語制定の現況について、諸語を交えた話し振りの中に、有益な内容を盛られた。この間聴講者は会場に溢れ、当日の好天候とあいまつて非常な盛会であつた。引き続き会場を変更し、2会場に分れて講演が続行された。

第1会場では主として、構造、材料力学その他自動車運動力学等5件の研究発表が行われ、それぞれの専門に関係ある聴講者によつて会場は満員の盛況であつた。

第2会場では最初に国土総合開発計画のあり方について講演があり、次にわが国港湾の現状及び近代化に関する問題や注目すべき神戸港第7突堤の計画が取り上げられ、更に大規模の人工洪水の実験結果や河川の洪水流量公式についての説明があつた。聴衆120~130名と推定され、盛会であつた。

翌27日は6会場に分れて講演が行われた。

第1会場では応用数学、構造力学、構造物の振動、溶接構造ならびに許容応力、鉄筋コンクリート梁の塑性及び破壊その他歪測定法に関する20件の研究発表と水文学関係2件の研究発表があつた。静力学的諸問題については弾性限をこえた塑性域、挫屈については挫屈後の極限強さの問題が多く取り上げられ、また振動に関しては、耐震設計の見地より地盤上の構造物の振動について研究が進められたことが顕著であるが、この方面の研究傾向として真に有益である。溶接、測定法についても緊急を要する諸問題であり、これ等の成果は設計、実験に直結していると考えられる。また解法原理に関する諸発表は工学上重要な問題を取り扱つたものである。講演については時間の許す限り活潑な質疑応答があり盛会であつた。

第2会場においては、橋梁及び水力発電関係の講演が行われた。まず橋梁部門では門形ラーメン橋、アーチ橋の設計々算法及び温度応力の解法を始め、吊橋に関する2,3の考察や目新しい木コンクリート橋の設計法に対する研究発表があり、さらに批把島川橋、甲武橋、高津川橋、瀬田川橋梁の架設及び改良工事の報告が行われた。その他構造材料としてのアルミ合金、平面接触のヒンジの作用に対する若干の考察が述べられた。次に水力発電部門では堰堤の合理的設計に資せられる堤内応力、揚圧力、余水吐の流入損失落差に関する理論的実験的研究報告があり、新庄発電所、山辺発電所の工事ならびに設計報告、その他砂防の実態、安野発電所事故について貴重な研究発表が行われた。聴講者数十名の多数に昇り実に盛大な講演会であつた。

第3会場の講演は港湾関係、コンクリート関係及び

コンクリート工事の施工報告が主であつた。大阪港を中心とした地盤沈下及び高潮に対する対策、セメント関係は風化の問題が取り上げられ、コンクリートでは従来の研究に対する批判とそれに対する新しい基礎的研究があり、水密性試験方法、癒着等の研究も注目せられた。アルカリ骨材反応の全国的な調査及び実験報告、真空処理コンクリートの実験報告、音響学的研究の報告もあつた。現場報告ではコンクリートのコントロールに対する坂本氏の有益な報告と試験舗装に関する報告等今後も期待したい。

第4会場では、水理学及び河川工学関係の講演が行われた。水理部門では本格的な実験的研究が非常に多くなつたことが目立ち、幅の拡がる水路、薄層流、漣過及び滲透などについて注目すべき研究成果の発表があり、理論的なものとしては流水路網、砂濾過、波浪の屈折と回折などについて見るべきものがあつた。河川部門では水文学関係のものが多くの方面から真剣にとりあげられ、又洪水波について等流よりの変動を水平交換係数で置換えるという新しい取扱ひ方が発表された。なお洪水対策乃至は河水統制などの事例についても若干の報告があつた。講演は予定通り行われ、聴衆は終始80人以上で非常に盛会であつた。

第5会場では午前中に主として都市計画及び道路関係の講演が行われた。理論的研究や現場の経験に基づく報告等有益な発表が多数見られ、聴講者一同極めて熱心に聴講せられた。定刻開始時には聴講者10名位であつたが、逐次増加して午前中は約40名位あつたようである。

午後においては鉄道工学関係の講演が行われた。大学関係からは軌道の衝撃応力、局部応力、横強度の算定、継目構造の強化及び道床搗固めについて講演され国鉄から国鉄軌道の現況、炭素鋼軌条改正案、軌道の診断、貨車編成理論、長岡・吹田両操車場の改良新設計画が報告せられ、近畿日本鉄道からは保線作業の機械化、大阪市交通局からは高速鉄道について報告があつた。午前午後を通じ講演者の欠席なく午後の聴講者はさらに60名に増加し盛大裡に終始した。

第6会場においては主として土質工学および建設機械に関する講演が行われた。この種の講演のみが一室に集中されたことは珍しかつたか、聴講者も数十名を越え仲々盛会であつた。土質関係では締め固めに関するもの、地盤硬化法に関するものが多いが目立つたが、その他についても多岐にわたつていた中、今回は特に実験に関する報告的のものが多かつたように思われた。建設機械に関するものは現場に関する改良や機械施工の経済性等の講演があつた。

なお今回の講演概要は若干残部がありますから御希望の方は学会宛申込みたい。(定価 200 円, 但し会員に限り 150 円)

◎見学会 総会, 年次講演会に引続き 28 日見学会が A B 2 班に分れて行われた。

A 班 午前 9 時半大阪市役所前に集合, 市バス 3 台に分乗して安治川尻の大阪内港安治川棧橋に着く。大阪市港湾局長より大阪港修築計画, 関係係員より棧橋築造工事等の説明があつて同棧橋及び竣工間もない上屋を見学した。日程の都合でサンドポンプによる盛土工事の現場は見られなかつたが戦後大修築を敢行しつ

安治川棧橋附近



ゝある大阪港の活気に限りない頼もしさが感じられる。同棧橋より 3 艘のランチに分乗。朝からの曇天も一刻晴れて快い初夏の海風を胸一杯吸いながら港内を回航。高潮防禦工事を海上より見学して一時港内に碇泊。昼食後安治川を溯行, 大阪港修築の一日も早く

大阪港内船上で昼食



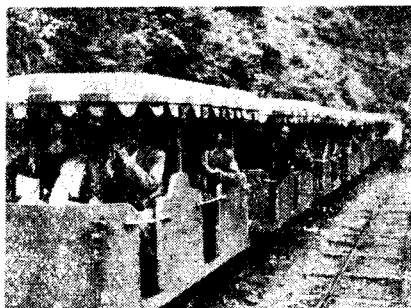
らんことを祈念しながら午後 1 時半中央市場前で下船, 再びバスで大阪城に向う。天主閣から市内を眺望しているうちに生憎の驟雨に遭つたが予定通り見物を済ませて電気科学館に着く。プラネタリウムも目新しいものではないが現在では此処でしか見られないからやはり大阪名所の一つであろう。市内見学は地元会員にはさして有難くないかも知れないが「こう云う機会でもない仲間見難いもので……」とは、某在阪会員の述懐。全日程を予定通り終了して市役所前着午後 5 時。参加人員は約 80 名であつた。

B 班 (琵琶湖, 発電所及び宇治川ライン見学) 集合時刻の午前 8 時には京阪電鉄天満駅に大半集まり受付で照会を終つて, 空模様を気にしながら, 元気に歓談している。由來見学遠足等に参加する人々の顔色は老若男女皆朗らかで楽しそうで怒つたような人が一人もいないのは奇妙であるが, 殊に土木学会の催し程ややかなものはないと, ひそかに自負した。ふと受付を見ると本部の編集委員会毎月顔を合せる別府氏が盛んに活躍して居られるので, 最近当地に榮転されたことを聞くまでは東京附近にいるような錯覚を起して微笑しかつた。下らんことを考へている間に時刻が来て, 京阪電鉄の御厚意による貸切特別列車に乗込み, 8 時 50 分静かに出発, 車内放送スピーカーで沿線風景の説明を聞きながら, 快適な乗心地で途中無停車の優越感にひたり, またゝ間に奈良電の 300 呎のトラス (日本最大スパンの鉄道橋とのこと) を右に見て, 京都に入れば五条大橋を左に見て牛若丸の飛び上つた欄干は何番目の擬宝珠附近かな……等と思つている間に三条駅に到着, 直ちに太湖電鉄に乗り換え, 国道に沿つて東山ホールの下を通り, 山科を過ぎ浜大津に着, こゝで京都方面からの参加者を加えて太湖汽船に乗船, 11 時湖面をすべるように出帆, 暫らく彼方此方を眺めていると, 若鮎のような案内嬢が琵琶湖風景の説明をして曰く「……は今昔の感に打たれて感慨無量でありませす」は一寸印象的であつた。やがて瀬田の大橋の下を落り石山寺に着いた。石山寺の山門を右に見て国鉄石山寮に入つたのは正午少し前であつた。この間に石山寺に参拝を済ませた勾配の早い人があつたのには驚いた。こゝで昼食をとりながら, 見学班長の近畿地建武田事務所長の琵琶湖綜合開発計画, 宇治川水系南郷洗堰, 鹿跳堰計画等を聞き, 終つて 12 時 30 分同所から 5 台のバスに分乗して出発, 南郷洗堰に到着, この洗堰は明治 37 年完成したので, 角落して人力によつて操作するため全部開くには 1 昼夜を要するそうであるが, 停電の場合でも操作出来ないという心配は絶対はないとのことである。而し近く機械力に変更される予定である由。これから鹿跳を経て, 外畑に至り, ここでバスを棄てゝ有名な宇治川ライン下りのモーターボートに移乗した。やがて軽いエンジンの音に両側の新緑を賞でながら湖のような水面を滑るようにジグザグコースを下ること暫し, 大峯ダムに到着, 雄大なダムの偉容は何処も同じであるが自然を征服した力強さを物語る。これから少し下つた処がお伽電車の発着所である。こゝで少憩ののち 2 個列車に分乗し, 型の如く警笛一声河岸を下る絶壁の景色又一入である。志津川発電所に於て所内隈なく見学の後同所技師から発電

大峰ダム



大峰ダム附近でお伽電車に乗る



能力、数十個のメータ等に至るまで詳細な説明を聞き（最大出力 32 000 kW、有効落差 45.46m、大正 13 年完成）尙大峰発電所（最大出力 8 000 kW、有効落差 21.21 m、昭和 2 年完成）の遠方制御を当所でやっているとのことである。これから程近い宇治発電所に向う途中工専用トラックに便乗し得たのは幸であつた。宇治発電所は水路の改修工事中のため発電休止中であつたが、宇治新茶のおふるまいに渴を療し、同所内を見学した。こゝで武田班長の丁重な挨拶があり、一行を代表して東北支部の鶴見一之氏が心から謝辭を述べられ、1 日の有意義な旅行の幕を閉じた。時 16 時 30 分、ここから三々五々平等院その他の旧蹟を訪ねる殊勝な人々や、京都方面に行く人、或いは奈良方面に行こうかと相談している人々や真直に大阪に帰る人等思い思いに一日の清遊

の追憶に耽りながら袂を別つた。参加者実に 144 名の多数に上り、AB 班共統制のとれた行動で終始したのは各委員の周到な準備によるもので、ここに地元関係の方々に厚く

感謝の意を捧げる次第である。

◎アメリカ土木学会長 Gail A. Hathaway 氏名誉員推挙経過 別項記事の通り総会で同氏の名誉員推挙の追認を得たので、こゝに経過を報告する。2 月 21 日常議員会で、この議が成立したので、建設省河川局長目黒清雄氏が Japanese Missionson Flood Control and Watershed Management として 3 月 14 日羽田空港を出発渡米される好便に推挙状を託した所、4 月 3 日 Hathaway 氏の事務所で贈呈された(写真参照)との報と同氏から次のような礼状に接した。

Dear Mr. Miura: 10 April 1951

It was a great privilege and honor for me to accept Honorary Membership in the Japan Society of Civil Engineers. Mr. K. Meguro, Director of the River Bureau, Ministry of Construction, made the presentation in my office on 3 April 1951. He also handed me your letter of 8 March advising that on 21 February 1951 the Board of Direction of your Society voted unanimously the Honorary Membership.

Will you please inform the members of the Board of the Japan Society of Civil Engineers that I shall hold in esteem this high honor and will never forget the fine reception accorded Mrs. Hathaway and me during our brief visit to your country during the period 5-8 February 1951.

I am sure that your Society will be interested in the press releases made by the Department of Defense describing the presentation of the Honorary Membership. I am also transmitting a photograph taken during the presentation, as well as a photograph of the members of the Japan Flood Control Mission.

I sincerely hope that a feeling of close friendship and mutual understanding between the Japan Society of Civil Engineers and the American Society of Civil Engineers, as well as our countries, will continue in the future.

With kind personal regards and best wishes.

Sincerely yours,

Gail A. Hathaway
President

Hathaway 氏に名誉員推挙状を手渡す目黒河川局長



◎第14回理事会(昭.26.5.19) 出席者: 三浦会長, 大西, 稲浦副会長, 佐藤, 西松, 北村, 奥田, 米元, 市浦, 丸安, 国分, 仁杉の各理事。協議事項: (1) 日本工学会理事に本間仁君を依頼すること。(2) 西部支部からの事業計画及び予算要求については次回に審議のこと。(3) 土木工学叢書契約案は委員会に一任, なお佐藤理事から委員会改組について発言があつたが次回検討のこと。(4) 外国人の入会については, 外務省と打合せること。(5) 6月行事は学生の集いを開催。(6) J S C 応力連合講演会の担当理事を丸安理事とする。(7) 特別員勧誘について中部支部からの申入事項中最初の会費 50% を支部に交付することは了承したが他の2件は現状のまゝとする。(8) 工業技術庁構造用鋼材規格委員に富樫凱一君を追加推薦すること。(9) 昭和25年度事業報告及び会計報告原案通り承認。(10) 大ダム会議論文を邦訳することは市浦理事担当し電気協会とも打合せること。

◎定例常議員会(昭.26.5.24) 出席者: 三浦会長, 大西副会長, 野中, 宮崎, 八十島, 米元, 内田(東北) 松見(中部)の諸氏, 委任状 23 通, 全員 51 名に対し出席 8, 委任状 23, 計 31 名, 過半数であるから常議員会成立, 外に那波, 草間両前会長, 丹羽, 安芸両名誉員, 佐藤, 国分両理事。協議事項: (1) 昭和 25 年度事業報告(佐藤理事説明)承認。(2) 昭和 25 年度会計報告(経理部長に代り中川書記長説明)承認。(3) 昭和 26 年度会長, 副会長, 理事 5 名の選挙投票開票の結果当選者次の通り

会長 大西英一 副会長 立花次郎
理事 今岡鶴吉 樟島正義 高畑政信 富樫凱一
本間 仁

報告: (1) 昭和 25 年度土木賞授賞者, (2) 総会に推挙する名誉員候補者(別項参照) (3) 関東地区常議員改選結果報告(別項参照) その他: (1) 国分理事から日本工学会の組織改正につき説明ののち, 昭和 27 年に工学会, 29 年に創立 75 周年記念工学会大会開催の計画があると報告し, (2) これに関連して日本工学会と土木学会創立当時のいきさつについて各長老の懐古談があり, (3) 大西副会長から日本放送電解消につき土木技術奨励基金贈与の見通しがついたとの朗報があつた。

◎各種委員会

(1) 編集委員会(昭.26.5.18) 出席者: 奥田委員長, 米元副委員長, 福田顧問, 荒井中部支部委員, 後藤, 河上, 井口, 樽井, 国分, 宮崎, 吉越各委員, 中川書記長, 三宅幹事, 岡本編集員, 協議事項: 36 巻 7 号登載論文を次の通り決定。

上山惟康: 降雨から確率洪水流量を推定する方法について, 田中茂: 地被植物の急斜面土壌浸蝕に及ぼす効果, 杉本修一・稲田裕: 橋脚壁面における洗れの剝離について, 小林勇外 3 名: 電気抵抗の変化による軌条応力の測定(第1報), 久保田敬一: 土壌塊の滲透に関する実験的研究, 岡本舜三: 栃木地震の時の板荷村役場床版の破壊について。

(2) 土木叢書委員会(昭.26.5.10) 出席者: 佐藤委員長, 星埜, 岡本, 国分, 米元の各委員, 協議事項: 佐藤委員長から株式会社技報堂との交渉結果を報告し, 同社の希望条件を検討し契約書案を作製し理事会の承認を得ること。技報堂の出版希望順序は(1) 鉄筋コンクリート橋, (2) 鋼橋, (3) 応力, (4) 下水道, 流体力学の順であるが委員会もこれを承認。

(3) 用語委員会(昭.26.5.11) 出席者: 福田委員長外各委員及び久保幹事, 協議事項: 各部門追加用語の審議。

(4) 第5回法規小委員会(昭.26.5.17) 出席者: 稲浦委員長, 佐藤, 宮沢両委員及び横田氏, 協議事項: 宮沢委員から工務士法案の定義, 主務大臣, 報酬, 鉄道の施設基準法との關聯性等について意見があつたが各常任委員に原案を送附し5月末日までに意見を提出して貰つて大委員会にかけることとし, 一応小委員会は結了とする。

◎関東地区常議員改選結果報告 5月17日佐藤理事立会の下に開票の結果次の方々が当選された。

投票総数 604, 内有効 602, 無効 2

当選 山田順治 575	当選 高谷高一 569
〃 清水 力 567	〃 立花文勝 562
〃 長浜正雄 561	〃 井口昌平 560
〃 田中行男 560	〃 金沢 良 559
〃 藤野義男 559	

◎その他

(1) 文化映画会(昭.26.5.8. 国鉄8階映写室) 佐藤理事からO I Eに紹介されてフィルムを借用し, 下記映画を上映, 北村理事司会の下に開催, 300名を超える盛況であつた。(1) サンフランシスコ市, (2) 近代的道路, (3) リンカントネル, (4) 水から力へ, (5) アメリカの住宅問題, (6) 生活水準向上の鍵, (7) 共産主義の足跡。

(2) J S C 力学研究連絡委員会と学会との第2回連絡懇談会(昭.26.5.16) 米元理事出席, 協議事項: (1) 今回は応力学会と機械学会が担当し, 主催はJ S C 理論及び応用力学連絡委員会とし参加7学協会を連記する, (2) 各部門は (a) Hydro-dynamics, Elasticity, Plasticity, (b) Soil-mechanics, Thermodynamics,

(c) Heat-transfer, Vibration, Lubrication (d) Applied-mathematics. (3) 各学会で申込を制限せずにとまると、予定時間 20 分 1 名 1 編、(4) 英文の講演集を出版、(5) 刊行助成費を文部省等に相談、(6) 講演締切 8 月 31 日とする、(7) 前刷を 1 人 1 頁の予定で出す、(8) 費用は講演数に応じて各学会が分担する (9) 講堂、前刷、講演集は何れも部門別に最初から分ける、(10) 学会代表者を定めて置くこと。

(3) J S O 会長から第 9 回総会で「科学者の生活擁護につき世論に訴える」決議について、これに同調方要請があつた。

(4) 文部省大学々術局長から 5 月 12 日付「ハンノーバー建築展覧会 (7.3~8.12)」に展示する刊行物の寄贈方依頼があつたので学会は刊行物を 2 部宛寄贈し、会長からのメッセージを希望されたので本会の概要と最近 2 ケ年間の土木技術の傾向 (英文) を添付して提出した。

支 部 だ よ り

◎北海道支部 (1) 役員改選及び支部所在地変更

支部長: 江藤 智 国鉄北海道運輸支配人

商議員: 小川譲二, 中田勝一, 上戸斌司, 酒井忠明
一木保夫, 沢田詮良, 岩本常次, 宮崎正夫, 佐々木喬樹, 井上正夫, 武田利雄, 林猛雄, 稲垣茂雄, 横道英雄, 高橋敏五郎, 小林雄二郎, 小田島政治, 加藤正人
山田文雄

地区常議員: 真井耕象, 五味 信, 三島 勇

幹事長: 五味 信

幹事: 河西清, 西島国造, 森田義高, 小池龍夫, 尾崎晃, 森垣常夫, 西野常広 (抜者 森垣常夫)

所在地: 札幌市北五条西四丁目 札幌鉄道管理局施設長室 (電 2,2020~4)

(2) 講演会 (昭.26.5.10) 札幌において参加者 200 名

アメリカの鉄道について(幻灯説明) 田中茂美

耐寒コンクリートについて 樋口芳朗

鉋桁の振動特性と衝撃率 橋本香一

吹雪防止林について 塩谷正雄

この講演会は旭川市, 釧路市, 函館市においても行われた。

◎東北支部(1) 支部役員の異動報告

支部長: 照井隆三郎 宮城県土木部長

常議員: 伊藤信, 内田委郎, 大谷新太郎, 小池啓吉
藤村久四郎

商議員: 深井浩三, 大槻源八, 桑原彌寿雄, 北松友義, 橋内徳治, 鷲尾蟹龍, 佐藤繁次, 高橋甚也, 若林正次, 戸谷信雄, 中村偉治郎, 古川一郎, 牧野雅楽之丞, 佐藤信一, 宮本保

幹事長: 青樹晴一

幹事: 米村新之助, 後藤壮介, 今野彦貞, 高橋倫夫
佐藤源藏, 内藤録郎, 西海芳郎, 星野三郎, 佐々木泰三, 黒川弘喜

◎中部支部 (1) 幹事会 (5.4) を開催, 新旧役員会報告, 4 月中行事報告, 支部大会, 5 月行事, 支部内規会員獲得方法, 名簿作製等について協議した。

(2) 第 2 回見学会 (昭.26.5.20) 名古屋市堀留下水処理場および大治浄水場見学: 市役所前から専用バスで堀留下水処理場に着き, ここで立神支部長および比企野前支部長と共になり, 先ず立神支部長の挨拶があり続いて名古屋市杉戸水道局長から下水処理の現況および当処理場の排水面積, 汚泥の処理, 下水処理段階等配布パンフレットにより説明を受けると共に場内を見学し続いて大治浄水場に向い, ここに於ても処理場と同様, 杉戸氏の説明があり, 清水建設 K K 施工の浄水池増設および蓋の施工の工事状況と場内を見学し, 16 時 50 分名古屋駅前で盛會裡に解散した。参加者 58 名
◎関西支部 総会, 第 7 回年次学術講演会, 見学会等を開催 (別項記事の通り)

◎西部支部 2 月 17 日総会により既報の如く役員を決定したが, その後次の如き行事を行つた。

(1) 第 1 回幹事会 (3.26) 場所: 九州地方建設局, 議題: 1. 年次講演会講演申込について, 2. 本年度事業計画について, 3. 本年度予算案について

(2) 第 2 回幹事会 (4.30) 場所: 九州地方建設局, 議題: 1. 研究発表会について, 2. 事業資金募集について 3. 商議員会議開催について

(3) 商議員会 (5.4) 場所: 熊本県山廉町, 議題: 1. 本年度事業計画について, 2. 事業資金募集について, 3. 西部支部運営について, 出席者: 17 名

(4) 第 1 回研究発表会 (5.19~20) 場所: 熊本大学工学部講堂, 参加人員: 150 名

(講演題目は前号 8 頁参照)

准員 久野信夫氏は去る 4 月 20 日逝去された旨通知がありました。本會は會員の皆様を代表して紙上より深く哀悼の意を表する次第であります。

謝 辞

今般土木学会総会、第7回年次講演会及び見学会を、当支部管内に於て開催され、頗る盛会裡に全日程を終ることができましたことは学界のために同慶の至りに存じます。

これ偏へに、全会員並びに関係各方面の絶大な御協賛の賜ものと、茲に謹んで深謝の意を表します。

昭和 26 年 5 月 28 日

社団法人 土木学会関西支部

支部長 和田 重 辰

◎総会講演会及び見学会実行委員

委員長 和田重辰

副委員長 浦上衛門、武居高四郎、末森猛雄

参 与 岩崎雄治、広長良一、村山朝郎、米田正文、熊本正晴、三池浪銀、天竺良吉

総務委員(年次講演会実施に関する総合調整及び財政計画に関する事項)

中島武、具島太三郎、高津俊久、河村重俊、友田清三、有賀茂、江口馨、光井三郎

会計委員(年次講演会開催中の予算計理及び決算に関すること)

柴橋種造、小林利春、中川辰夫

接待委員(年次講演会開催の諸接待に関する事項)

石田聖、広岡勝治、市川寿雄、中山純一、天野毅彦、八嶋忠、田所文男、中村房吉、梅原貞三郎

講演委員(講演会の企画運営並びに予稿の編集に関する事項)

安宅勝、田中清、伊藤富雄、小西一郎、村山朝郎、横尾義貫、米谷栄二、桜井秀男、田中茂、武田英吉、角田敏雄、武田平七、宮北敏夫、逸見正則、田中常三、永井莊七郎、北川幸三郎

見学委員(見学会開催の調査及び実施に関する事項)

行友誠、徳岡堅三、武田良一、宮崎虎太郎、安藤四郎、田中幸二、東齊、山田正平、近藤市三郎

◎協賛団体名(敬称略順序不同)

近畿日本鉄道KK、京阪神急行電鉄KK、阪神電鉄KK、南海電鉄KK、京阪電鉄KK、関西電力KK、大阪ガスKK、KK大林組、KK鴻池組、佐伯建設工業KK、大成建設KK大阪支店、KK松村組、KK西松建設関西支店、KK朝日土木大阪支店、KK奥村組、KK熊谷組、滝田建設KK、大日本土木KK大阪支店、KK中川組、KK神崎組、KK錢高組KK清水建設大阪支店、KK間組大阪支店、日本建設産業KK、栗本建設工業KK、KK郷組、KK宮本組、KK河野組、東亞港湾工業KK大阪出張所、三建工業KK大阪支店、大阪鉄道工業KK、鉄道建設興業KK大阪支店、臨海土木工業所大阪出張所、合名会社水野組、KK市村組、KK平野組、KK淺沼組、日本建設工業KK、KK鹿島建設大阪支店、阪神築港KK、汽車製造KK大阪製作所、日立造船KK、KK日立製作所大阪営業所、發動機製造KK、岡山内燃機KK、大阪製鋼KK、KK淀川製鋼所、日本橋梁KK、松尾橋梁KK、日本ヒューム管KK大阪営業所、帝國ニューヒューム鋼管KK大阪営業所、日本ゼニスパイプKK神戸支店、大同コンクリート工業KK大阪出張所、大阪窯業セメントKK、日本セメントKK関西事務所、小野田セメント製造KK大阪支店、宇部興産KK大阪出張所、合名会社奥村組、KK大阪砕石工業所、KK森組、丸五石材KK

昭和 26 年 6 月 25 日 印刷 土木学会誌 定價 80 円

昭和 26 年 6 月 30 日 発行 第 36 卷 第 6 号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地 中 川 一 美
印刷者 東京都港区溜池町 5 番地 大 沼 正 吉
印刷所 東京都港区溜池町 5 番地 株式会社 技 報 堂

東京都中央局区内千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話和田倉(20)3945番
発行所 土木学会 振替東京16828番